

# グローバル人材育成と留学の 中・長期的インパクトに関する研究

留学経験者と未経験者に対するオンライン調査結果より

国際アジア文化学会第25回大会（和洋女子大学）

2016年6月25日（土）

新見有紀子（一橋大学）

渡部由紀（一橋大学）

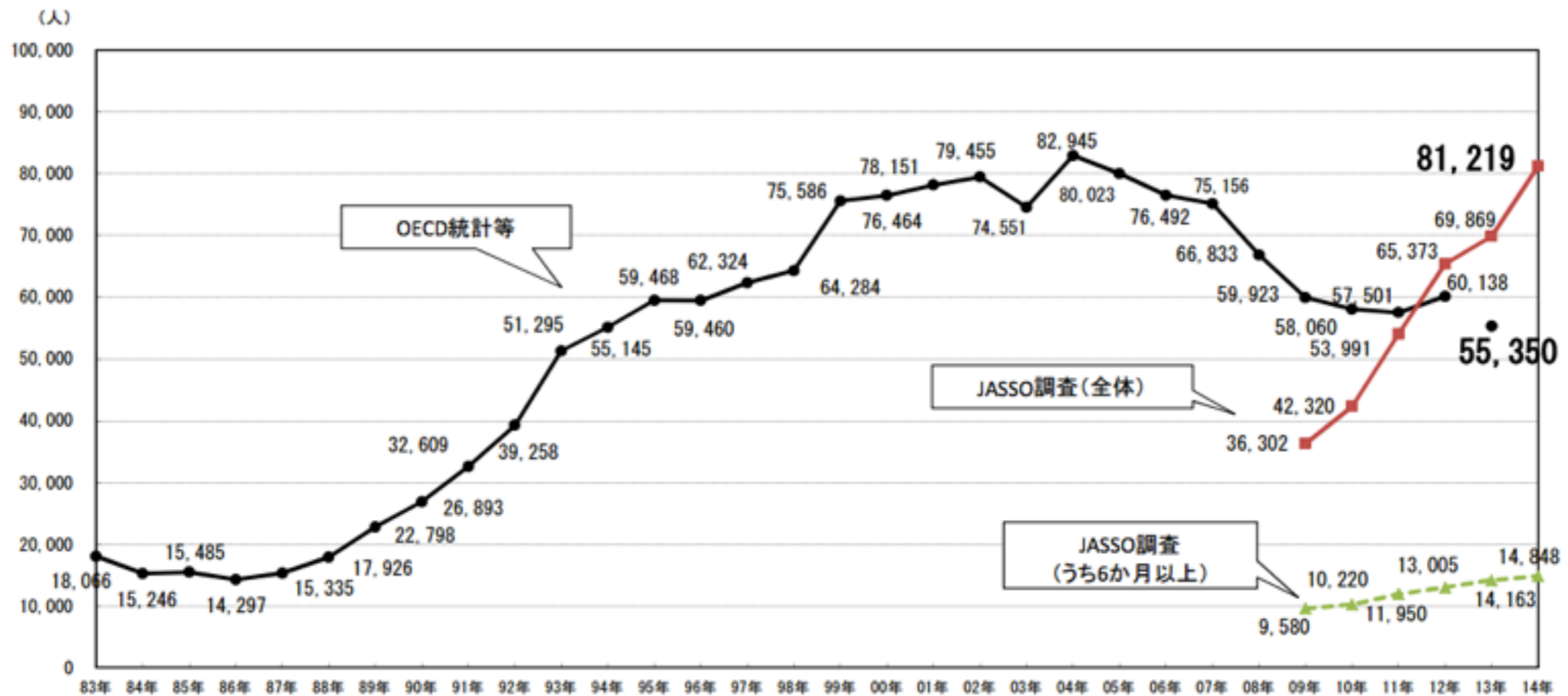
秋庭裕子（一橋大学）

本研究は、2013-15年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（A） 課題番号：25245078 「グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する研究」の支援を受け、研究代表者（明治大学国際日本学部教授 横田雅弘）のチームで行ったものです。

# 背景①：海外留学状況

- 全世界における留学者数は2011年に450万人（OECD, 2014）
- 日本人の海外留学者数は、2013年に55,350人（文部科学省, 2016）※カウント方法も変更
- 日本の大学に在学中の留学者数（協定等に基づく・基づかない留学）は、2014年度に81,219人（日本学生支援機構, 2016）

ユネスコ統計局, OECD, IIE等における統計, 並びに(独)日本学生支援機構の調査による日本人の海外留学者数の推移



(出典) OECD統計等: OECD「Education at a Glance」、ユネスコ統計局, IIE「Open Doors」、中国教育部, 台湾教育部  
JASSO調査: 「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」((独)日本学生支援機構)

# 背景②：海外留学に関する取り組み

## 受け入れから送り出しへの転換

- 2020年度までに日本人の海外留学者数を12万人へ  
(日本再興戦略：Japan is Back、2013年6月14日閣議決定)

## 学生向け

- 「海外留学支援制度」 日本学生支援機構
  - 2016年度には23,000人（協定派遣型）、270人（大学院学位取得型）に対する奨学金
- 2014年～「官民協働海外留学支援制度トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」（文部科学省と民間企業）
  - 2016年度は、現時点までで932人

## 大学向け

- 2012年～「グローバル人材育成支援」事業
- 2014年～「スーパーグローバル大学創生支援」事業

# 先行研究

留学のインパクトに関する大規模な調査

# 留学の中長期的なインパクトに関する先行研究（米国）

## Study Abroad for Global Engagement (SAGE)

- 1960年から2005年までの約50年間に海外留学した6,378名と、留学未経験者5,924名に対してサーベイ調査を実施。
- さらに留学経験者63名に対するインタビューと複数のケーススタディを実施。
- インパクトの焦点：留学経験の長期的なインパクトとしてグローバルエンゲージメント（国際社会貢献）の5つの側面（市民としての行動、知の創造、フィランソロピー、社会起業、質素儉約）、および、留学後の進学やキャリア選択への影響について。（留学が留学経験者個人だけではなく社会へ与える影響を議論。）
- 留学経験は、特に質素儉約の態度や、留学後の進学・キャリア選択という留学経験者の人生にわたり影響を与えることが明らかになった。
- 本研究調査票の作成においては、SAGEの調査票を参考にし、SAGE研究代表者の一人のDr. Fryにも助言を求めた。

# 留学の中長期的なインパクトに関する先行研究（米国）

- **Georgetown Consortium Project :**

O'Rear, I., Sutton, R. C., & Rubin, D. L. (2011等)に報告されている、2003年からの3年間に渡る留学の効果に関する大規模な調査研究。米国内の190の大学における留学経験者（1159名）と、同時期に米国内の大学でのみ学修していた者（138名）に対して、留学期間の前後に外国語運用能力と異文化感受性に関するテスト実施。その結果、留学経験者の方が対照群よりも、それぞれのスコアがより大きく向上していた。

- **GLOSSARI Project :**

ジョージア州立大学機構における留学のインパクトに関する調査（Vande Berg, M., Connor-Linton, J., & Paige, R. M., 2009等）。大学在籍時の留学経験者（19,109名）と留学未経験者（17,903名）に対し、大学入学時のSAT試験の点数で分類されたグループごとに大学卒業率やGPAについて比較をしたところ、そのどちらについても留学経験者の方が高かったという結果が示された。

# 留学の中長期的なインパクトに関する先行研究（国内）

- 日本学生支援機構が海外留学経験者に対して2004年と2011年にインターネットによる追跡調査を実施。2011年の調査では、過去15年以内の留学経験者1,506人から有効回答を得た。調査結果では、留学で得られたものとして、視野の広がり、語学力や異文化理解力の向上、友人、価値観・考え方の変化などが上位に挙げられた。
- 野水・新田（2014）は、短期海外派遣留学の効果に関する調査を実施。短期留学が学業、語学、異文化理解、進学・就職、個人としての成長等に役に立っているとの経験者による自己評価が示された。
- しかし、これらの報告では、比較対照群（留学未経験者）を用いて検証をしていない。

# 研究の概要



# 研究の目的・本報告における焦点

- 日本人の留学経験者を対象に、留学経験が能力、意識、行動、価値観、キャリア、人生の満足度を与えた中長期的なインパクトについて、留学未経験者との比較分析により明らかにする。

# 調査対象者

## ・ 留学経験者

- 初等・中等教育を主として日本で受け、高校卒業後、勉学を主たる目的として3ヶ月以上、海外の大学、大学院、短期大学、専門・技術・芸術学校、語学学校等に在籍した人。
- 現在または過去に社会人を経験したことがある人。

## ・ 留学未経験者

- 国内の大学卒、または大学院修了者。
- 日本に存在する企業に勤めている、または主婦・無職。
- 3ヶ月以上の海外留学や海外在住経験がない。
- 帰国子女ではない。

# データ収集

- **留学経験者**

- 当該研究関係者のネットワーク、国際教育等の分野に関連したメーリング・リストおよびソーシャル・メディアを通じた周知および民間調査会社のモニターに対して、オンラインによる質問票調査を2014年12月から2015年5月上旬まで実施。有効回答数：4,489件。

- **留学未経験者**

- 留学経験者の回答者における年代別構成比率に相似するよう割付を調整し、調査会社のモニターに対して、オンラインによる質問票調査を2015年8月から9月にかけて実施。有効回答数：1,298件。

	カテゴリー	留学経験者 (N=4,489)	留学未経験者 (N=1,298)
性別	男	2,205 (49.1%)	647 (49.8%)
	女	2,284 (50.9%)	651 (50.2%)
年代	60歳代以上	52 (1.2%)	-
	50歳代	855 (19.1%)	221 (17.0%)
	40歳代	1,582 (35.2%)	451 (34.7%)
	30歳代	1,415 (31.5%)	437 (33.7%)
	20歳代	585 (13.0%)	189 (14.6%)
	高校	143 (3.2%)	-
教育段階	大学学部	1,870 (41.7%)	710 (54.7%)
	大学院（修士）	568 (12.7%)	461 (35.5%)
	大学院（博士）	202 (4.5%)	127 (9.8%)
	<b>語学学校</b>	<b>1,391 (31.0%)</b>	-
	その他	315 (7.0%)	-

# 質問票の構成

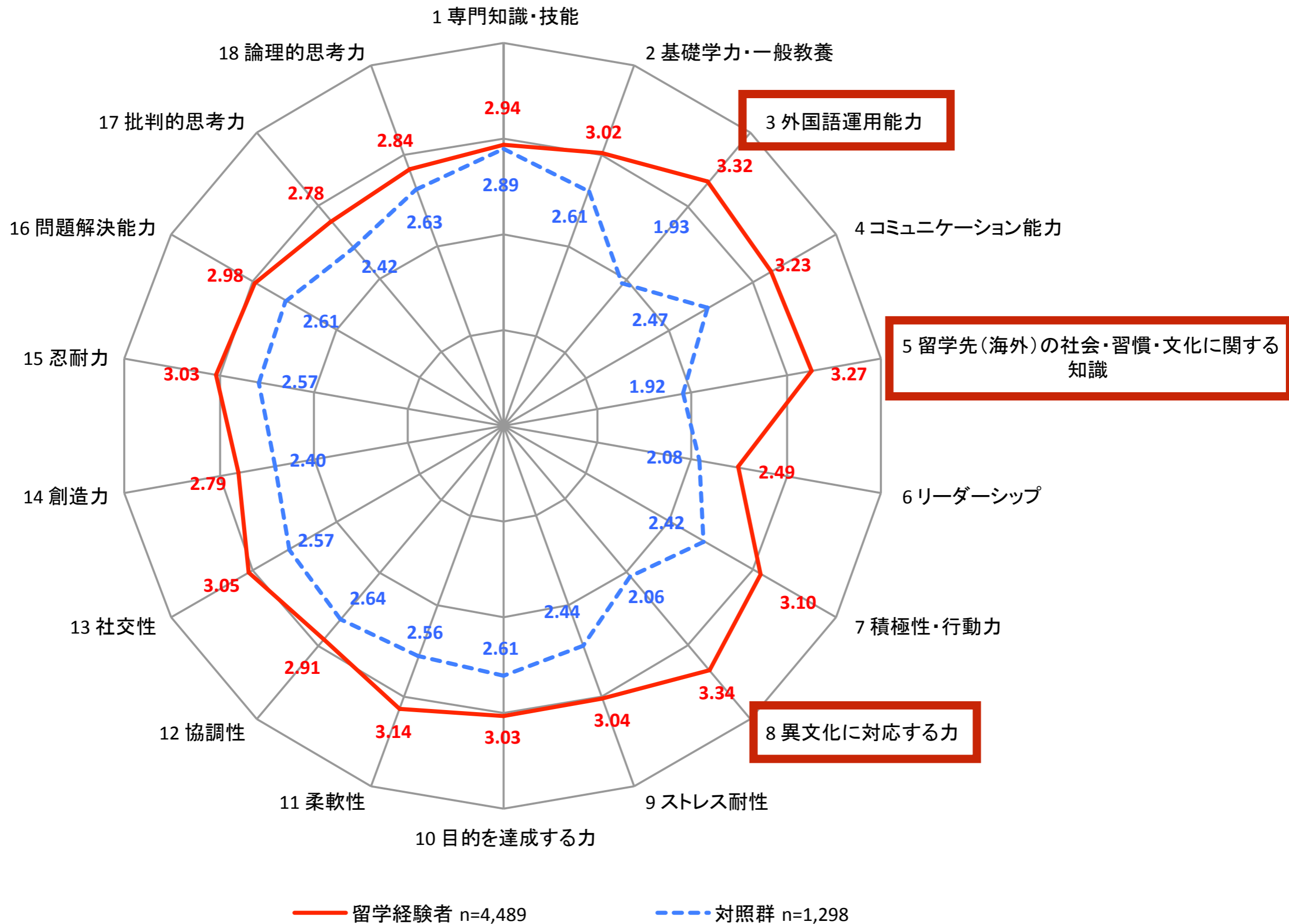
- フェイスシート
- 留学中の経験（中間ファクター）
- 留学後のインパクト
  
- 留学（留学未経験者の場合は国内の大学・大学院での学修と学生生活）のインパクトに関するほぼ全ての項目について、リッカート法の4段階尺度により評価を依頼。
  
- 分析方法：項目ごとに、回答の加重平均値を算出し、留学経験者と未経験者とで比較。

領域	項目数	スケール
能力の向上	18	つよくそう思う（4点） そう思う（3点） あまりそう思わない（2点） 全くそう思わない（1点）
意識の変容	16	
社会的な活動への参加	8	
キャリア・採用への影響	9	
人生等の満足度	6	
態度・価値観の変化	8	Aに近い（4点） どちらかということAに近い（3点） どちらかということBに近い（2点） Bに近い（1点）

- 具体的な質問項目については後述。
- 留学未経験者の質問項目については、国内の大学・大学院での学修と学生生活の経験を前提とした回答となるよう適宜調整した。

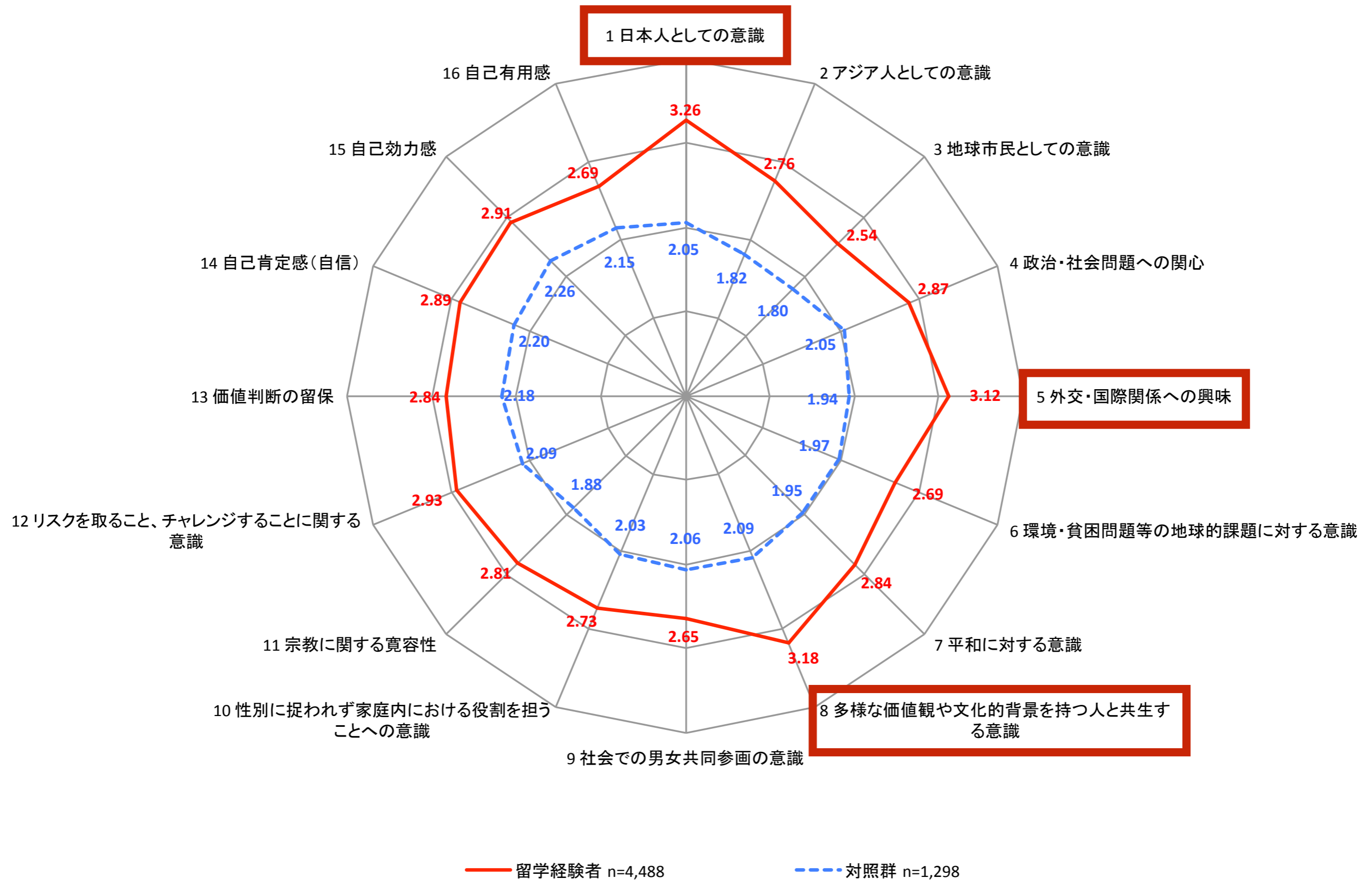
# 調查結果

# 能力の向上





# 意識の変容



# 社会活動への参加

1 地域社会への貢献活動

2 芸術文化の発展・育成支援活動

3 身近な地域の環境美化運動など、生活の中の省資源・省エネルギー、リサイクル等

4 多様な価値観や文化的背景を持つ人々への支援活動

5 多様な価値観や文化的背景を持つ人々との交流活動

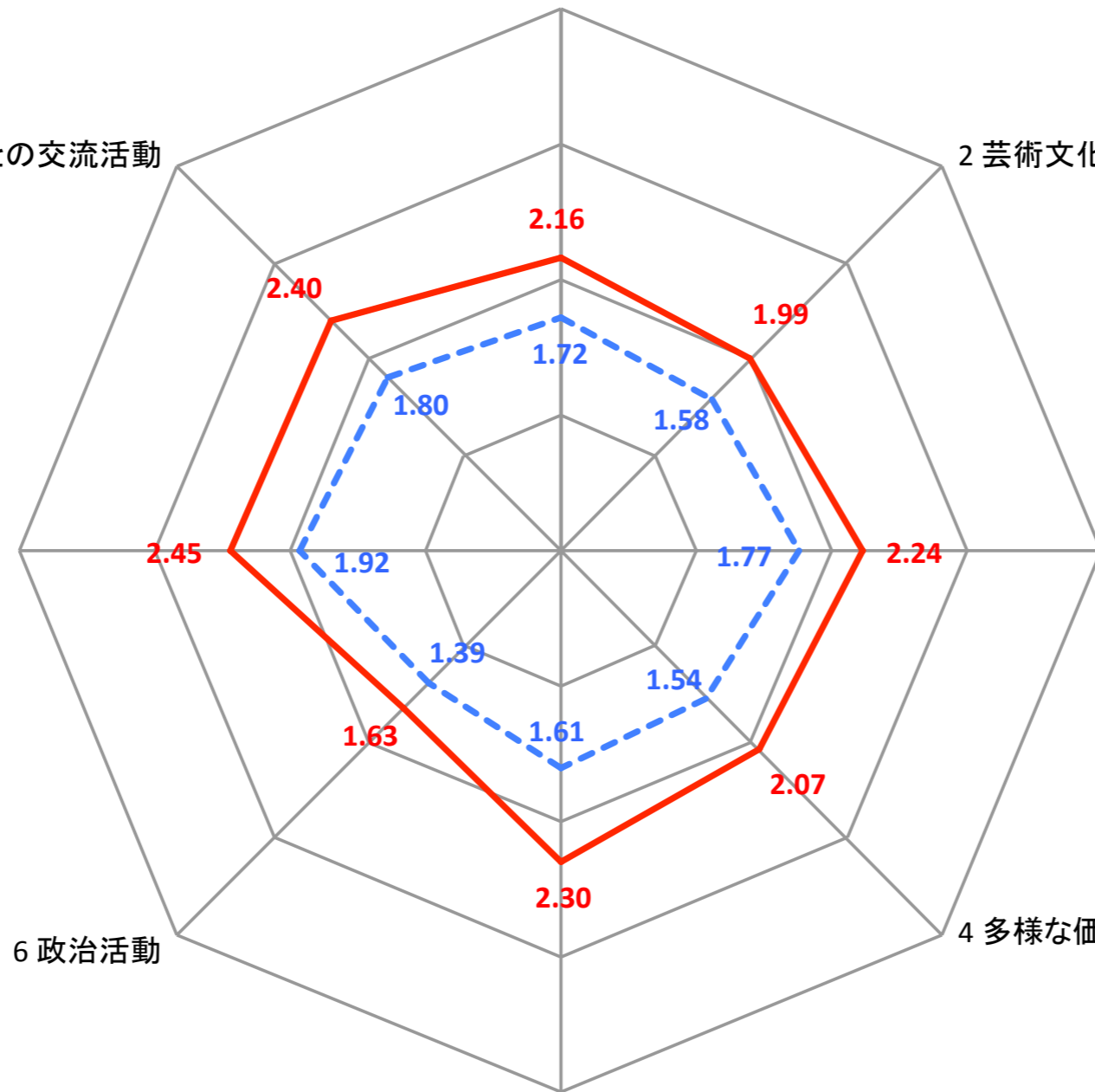
6 政治活動

8 多様な分野で活躍している人々との交流活動

7 多様な年齢・世代の人々との交流活動

— 留学経験者 n=4,487

- - - 対照群 n=1,298



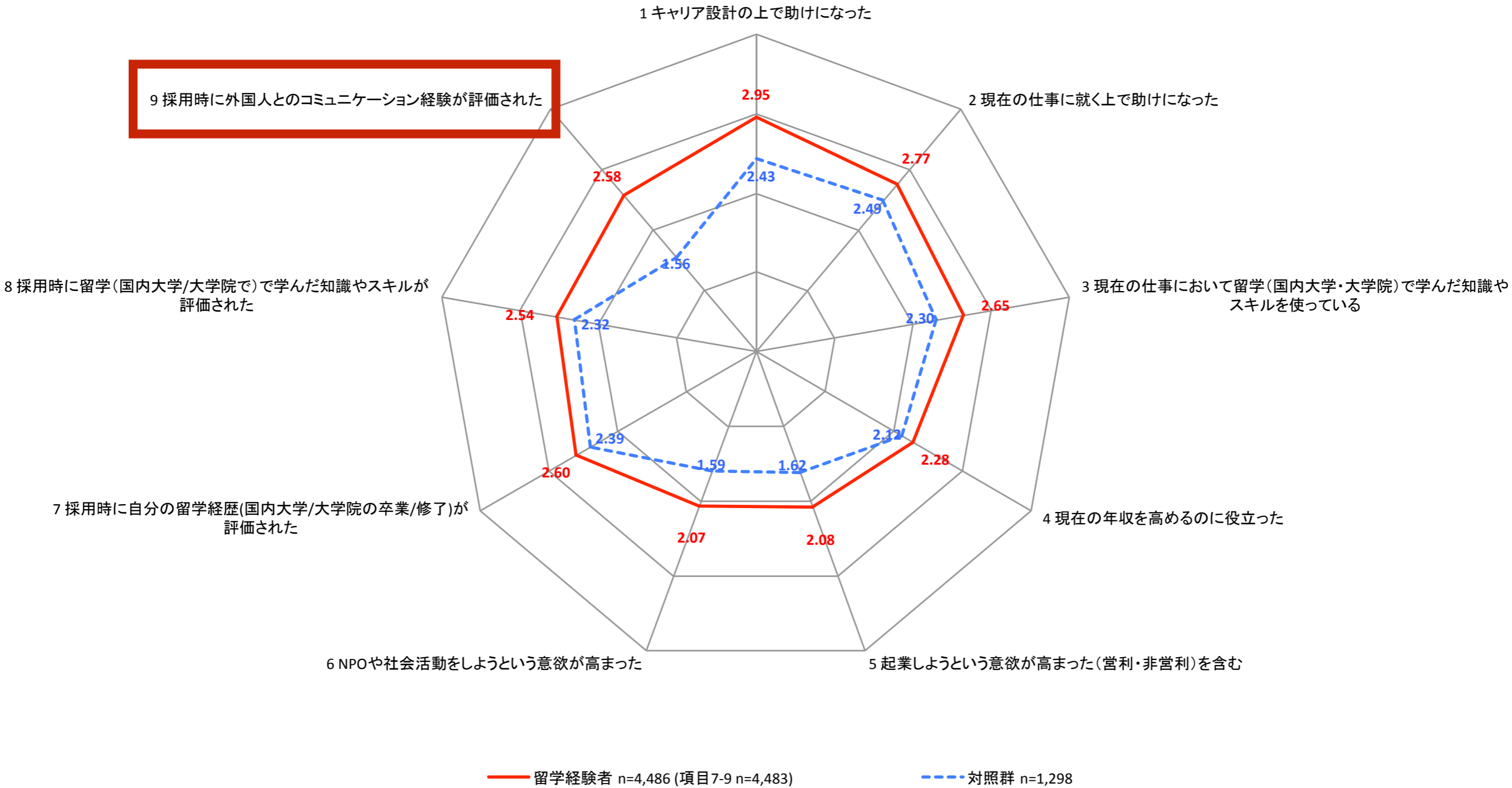
# 年収と年収平均値

	カテゴリー	留学経験者 (N=4,489)	留学未経験者 (N=1,298)
年収	2,000万円以上	74 (1.6%)	4 (0.3%)
	1,500万円以上-2,000万円未満	101 (2.2%)	8 (0.6%)
	1,000万円以上-1,500万円未満	315 (7.0%)	55 (4.2%)
	800万円以上-1,000万円未満	431 (9.6%)	99 (7.6%)
	600万円以上-800万円未満	530 (11.8%)	159 (12.2%)
	400万円以上-600万円未満	947 (21.1%)	335 (25.8%)
	200万円以上-400万円未満	1,233 (27.5%)	433 (33.4%)
	0円以上-200万円未満	857 (19.1%)	93 (7.2%)
	答えたくない	-	112 (8.6%)
	不明	1 (0.00%)	-
年収平均値	全体	536.1万円	504.1万円
	男	713.5万円	634.6万円
	女	365.2万円	368.6万円

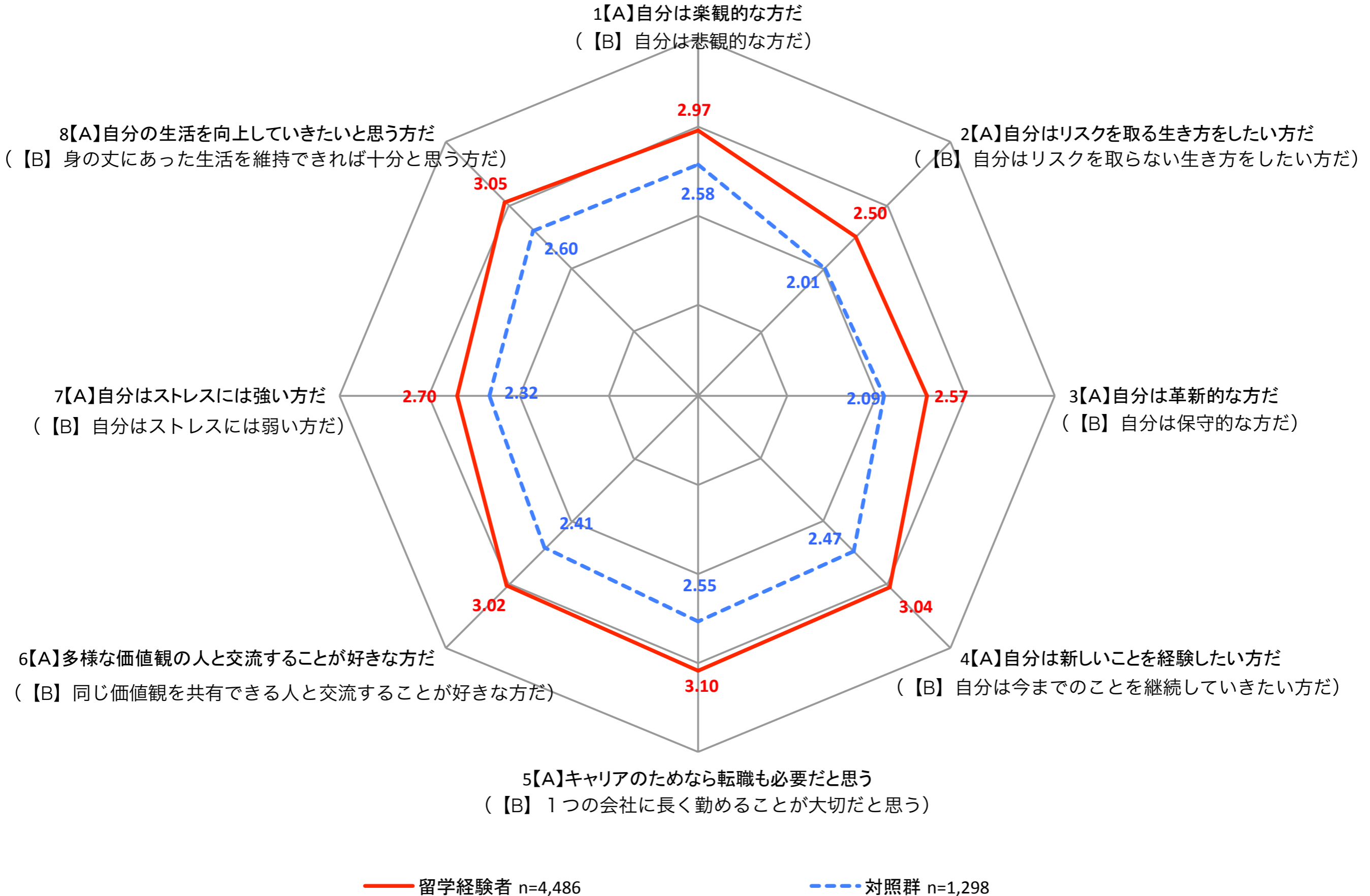
# 職位

カテゴリー	留学経験者 (N=4,489)	留学未経験者 (N=1,298)
経営者・役員クラス	452 (10.1%)	3 (0.2%)
管理職クラス	911 (20.3%)	225 (17.3%)
一般社員クラス	1,856 (41.3%)	877 (67.6%)
アルバイト・契約社員など	659 (14.5%)	149 (11.5%)
その他	32 (7.2%)	2 (0.2%)
主婦・無職	30 (6.7%)	42 (3.2%)

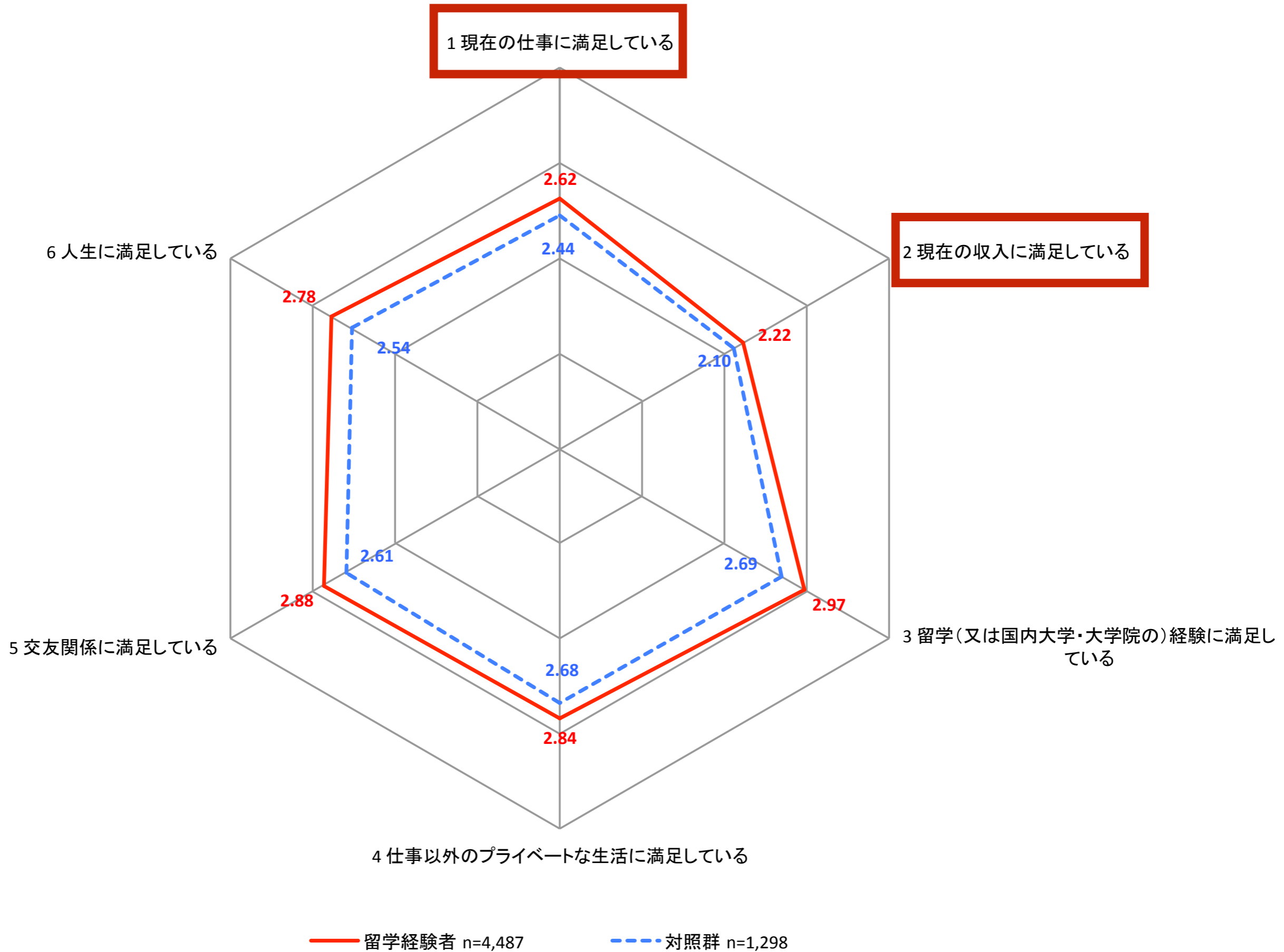
# キャリア・採用上の評価



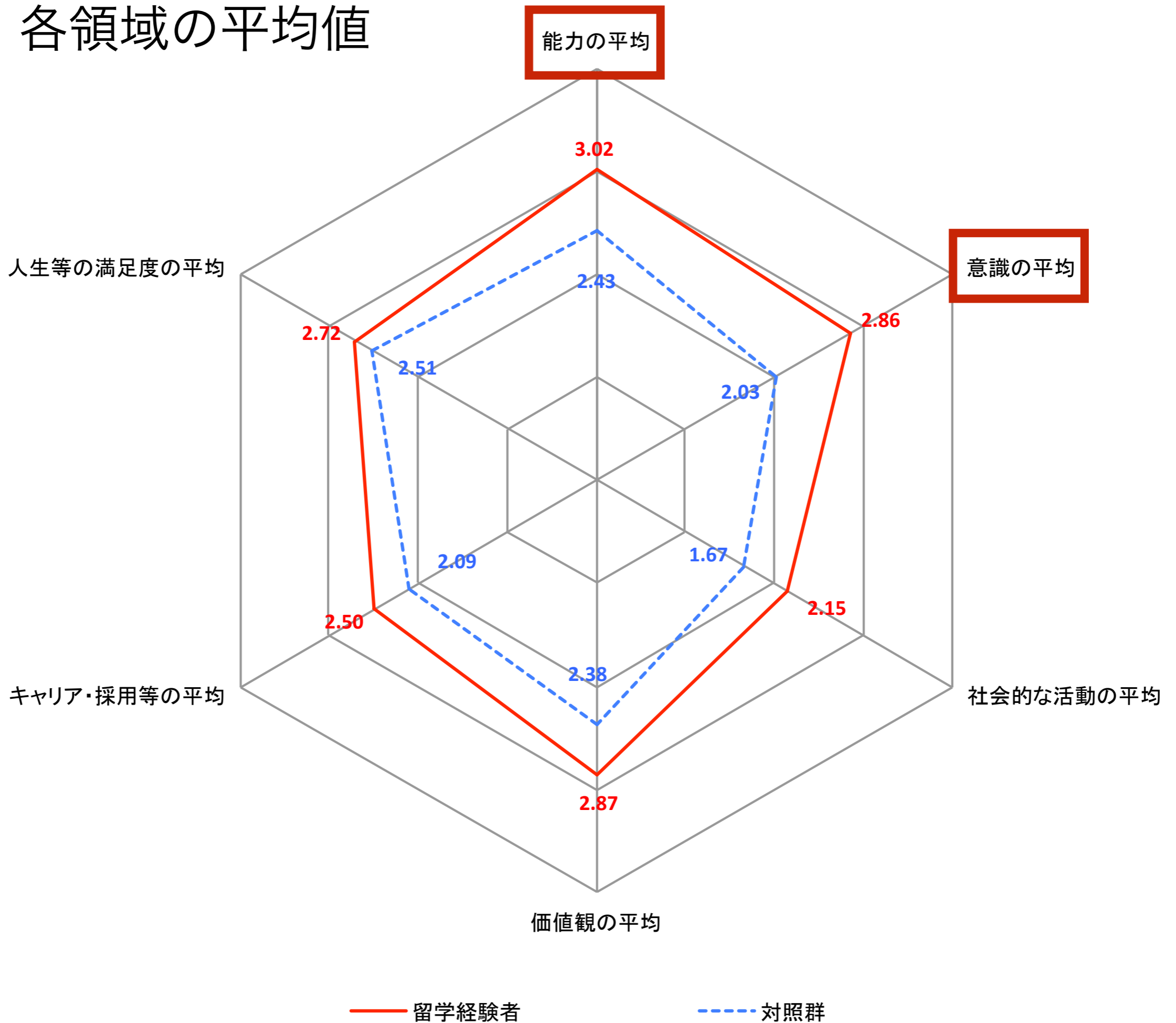
# 態度・価値観



# 人生等の満足度



# 各領域の平均値





# まとめ

- 留学経験者は、自らの留学経験が自身の能力の向上、意識の変容、社会活動への参加、態度・価値観の変化、キャリア・採用への影響、人生の満足度という六つの領域における様々な側面で肯定的なインパクトを与えていると認識している傾向が明らかになった。
- 特に、能力の向上（留学経験者3.02、留学未経験者2.43）と意識の変容（2.86、2.03）の領域において、留学未経験者との差が顕著であった。

# 考察

## ・ 能力面

- 留学経験と直接的な関連性が強い外国語の運用能力や異文化対応力だけではなく、社会人として重要とされるコミュニケーション能力や柔軟性といった汎用能力の獲得についても肯定的に自己評価していた。

## ・ 意識面

- アイデンティティの深化、国際問題への関心や多様な考えに対する寛容性、自信や自己効力感の向上に加え、物事を前向きに捉え、リスクを恐れずにチャレンジする意識の高まりも留学の成果として実感していた。

⇒ 留学経験がグローバルな環境において力を発揮するための素地となる能力の養成、意識や価値観の涵養において、効果的な学びの機会をもたらしていると言える。

# 考察

- **キャリア設計や採用面**

- 能力の向上や意識の変容に比べると限定的ではあったものの、その肯定的な影響を評価していることが示された。

- **人生等への満足度**

- 自身の留学経験に対する満足度が高く、その経験は自身の成長や人生を豊かにする上で役立っていると認識する一方で、現在の仕事や収入への満足度はそれほど高くなく、留学に費やしたコストに見合うベネフィットがキャリアの面では得られていないと感じている可能性が示唆された。

# 総括

## ・ 本調査における限界

- 留学経験の満足度が高い人が肯定的に調査へ回答するという傾向を排除できない。
- 留学経験者の様々な資質、能力、意識などについては、留学経験の前から高かった、あるいはそのような素養を持っていたからこそ留学したという可能性が否定できない。

## ・ 今後の課題

- 留学経験の中長期的な効果を検証するために、留学経験は、留学先学校種別、留学期間、留学先国、留学した年代、男女別など様々な要因を考慮した、詳細な分析を実施していく予定である。

# 参考文献

O'Rear, I., Sutton, R. C., & Rubin, D. L. (2011). The effect of study abroad on college completion in a public university system.

Paige, R. M., Fry, G. W., Stallman, E. M., Josić, J., & Jon, J.-E. (2009). Study abroad for global engagement: the long-term impact of mobility experiences. *Intercultural Education*, 20(sup1), S29–S44. <http://doi.org/10.1080/14675980903370847>

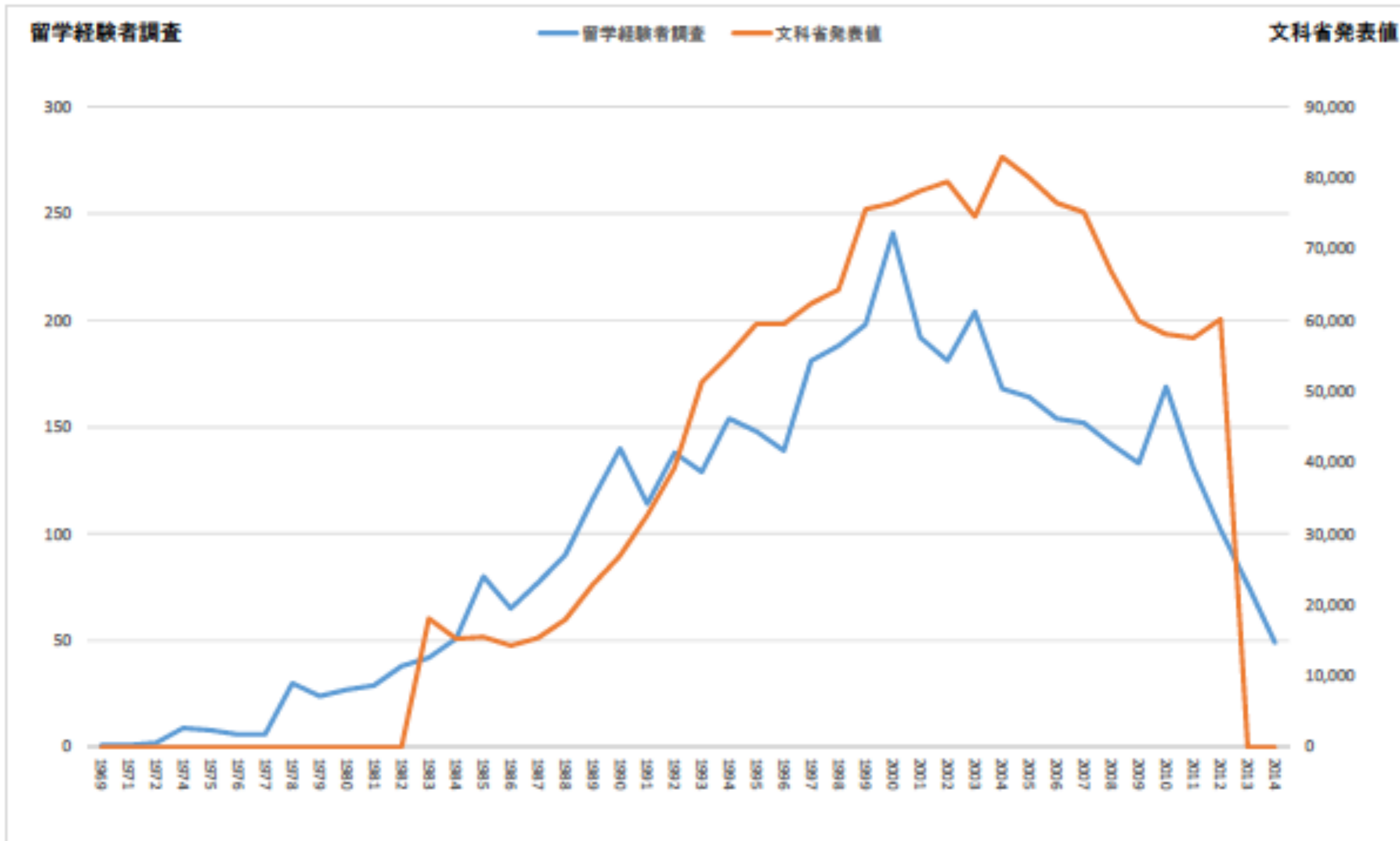
Vande Berg, M., Connor-Linton, J., & Paige, R. M. (2009). The Georgetown Consortium project: Interventions for student learning abroad. *Frontiers: The Interdisciplinary Journal of Study Abroad*, 18, 1–75.

日本学生支援機構. (2005). 平成16年度「海外留学経験者の追跡調査」報告書：海外留学に関するアンケート. Retrieved from [http://ryugaku.jasso.go.jp/datas/master\\_link\\_details/pdf/020150216175505\\_A8Usl.pdf](http://ryugaku.jasso.go.jp/datas/master_link_details/pdf/020150216175505_A8Usl.pdf)

日本学生支援機構. (2012). 平成23年度「海外留学経験者追跡調査」報告書：海外留学に関するアンケート. Retrieved from [http://ryugaku.jasso.go.jp/datas/master\\_link\\_details/pdf/020150216173809\\_WthAf.pdf](http://ryugaku.jasso.go.jp/datas/master_link_details/pdf/020150216173809_WthAf.pdf)

野水勉, & 新田功. (2014). 海外留学することの意義：平成23・24年度留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）追加アンケート調査結果分析結果から). *ウェブマガジン留学交流*, 40, 20–39.

# 本調査対象者（4,489）と文科省発表値



本調査の参加者には、留学直後の参加者は少なめとなっているが、留学の中長期的なインパクトの調査としていたことが影響していると考えられる。